美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議　東部地域会議

令和４年１月31日

【長谷川　地域課長】
ただ今から、「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議　東部地域会議」を開催いたします。
本日はお忙しい中、当会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。
私は、本日司会を務めさせていただきます、東部地域局地域課長の長谷川と申します。よろしくお願いいたします。
今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの会議となります。
はじめに配布しました資料確認をいたします。画面共有します。
1 月 18 日付けで郵送しました「事前意見記入用紙」に添付しました「議題１　美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の 2021 年度評価（評価の概要）資料１から２、参考１から３」。
次に「議題２新型コロナウイルス感染症を契機とした、ひと・しごとの流れの創出別添１から３、参考資料１」。
次に、１月 21 日付けで郵送しました会議資料であります会議次第、出席者名簿、設置及び運営要綱、ママとねさんの説明資料、大河ドラマ放送を契機とした静岡県東部・中部地域の取組、テレワーク PR ガイドブック。
最後に、１月 28 日にメールで送付しました　次第（修正）、出席者名簿（変更後）、別紙１（事前意見議題１）、別紙２（事前意見議題２）、意見用紙（当日配布）、若手企業家の取組概要。以上であります。
それでは、開会に先立ちまして、土屋静岡県特別補佐官からごあいさつを申し上げます。

【土屋　静岡県特別補佐官】
ただいまご紹介いただきました。静岡県特別補佐官の土屋でございます。本日は公私ともお忙しい中、まち・ひと・しごと創生県民会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。
２年ほど前から、コロナウイルス感染症がまん延しております。この中におきまして、まん延防止等重点措置、あるいは緊急事態宣言と、なかなか厳しい状況になってございます。今回もオミクロン株の急激な感染防止に対応するということで、急遽オンライン開催になりましたことを、お詫び申し上げます。
この、コロナウイルス感染症につきましては、大きな影響が出ております。地域経済にも住民生活にも影響が出ているというとおりでございまして、一方では、最近発表がありますように東京23区から、感染が減少傾向にあって外へ出ていると。転出があるという状況もございます。
その中で、そのような国民の意識、行動が変化している。いうことを前提で、ご

議論いただくというふうに考えております。
こういう状況の中で、岸田政権におきましては、３つの視点で、まち・ひと・しごと創生を考えているということで、１つは、ヒューマン。もう１つが、デジタル。もう１つがグリーン。この３つを重点に置いて、政策目標指標を立てて、総合的に推進するということをしているところでございます。
県といたしましても、ウイズコロナ、或いはアフターコロナの時代を見据えて、新たな価値観を前提とした社会を築いていく必要があると考えているわけであります。その中で、本日は、２つの視点でのご議論いただきたいというふうに思ってございます。
次第にありますように、まず１つは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の現状の評価であります。
第２期の美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略のPDCAサイクルによる評価をしたいということで、今年度、進捗状況の評価を行ったところであります。
引き続き、この取り組みを皆さんと一緒に連携しながら、協働して実施したいと考えておりますので、当方の評価に対して、皆さん方のご意見をいただきたいというのがまず１つ目であります。
もう１つは、先ほども言いましたように、新型コロナウイルス感染症によって様々なことが変わってきております。
そういうことで、「新型コロナウイルス感染症を契機とした、ひと・しごとの流れの創出」という「魅力的なライフスタイルの構築と実践」というテーマを設けさせていただきまして、各地域の実情、あるいは地方、地方の創生施策について、皆様方が今お持ちのもの、あるいは今後を考えたいということで、ご意見をいただきたいと考えてございますので、よろしくお願いします。
短い時間であり、かつ、Webの会議ということで、なかなか不便なところもございますけれども、皆様方の忌憚のないご意見をお願いしたいと思ってございます。
本日はよろしくお願いします。

【長谷川　地域課長】
ありがとうございました。
さて、本会議の根拠及び構成員につきましては、「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議　東部地域会議」の設置及び運営に関する要綱のとおりでございます。また、本日の出席者は、事前にお配りしております「出席者名簿」のとおりでございます。時間の都合により、ご紹介は省略させていただきます。
それでは、これより議事に入らさせていただきます。議事進行役は、要綱に基づきまして、議長である山本東部地域局長にお願いいたします。
なお、本日ご発言いただいた内容につきましては、会議録として、県ホームページ等で公開させていただきますので、あらかじめご承知おき願います。それで

は、山本局長よろしくお願いします。

【山本　東部地域局長】
ただいま紹介いただきました、東部地域局長の山本です。円滑な議事進行に努めますので、皆様、ご理解とご協力をお願いいたします。
それでは、次第に従いまして議事を進行します。
初めに、３（1）「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の2021年度評価（評価の概要）」につきまして、静岡県の地域振興課　鈴木課長から説明をお願いいたします。

【鈴木　地域振興課長】
県庁地域振興課長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。
先ほど進行の方でご紹介ありましたが、１月18日に送付されました、24ページほどの資料で説明をしたいと思いますので、そちらをご覧をいただきたいと思います。
まず資料１としまして、「静岡県における人口減少の現状」の資料になります。こちらをご覧をいただけますでしょうか。
まず最初に、人口の推移でございます。本県人口の実数は、直近2020年の国勢調査値で363万人が2015年から約６万7,000人の減少になっております。生産年齢人口の割合は57.6パーセントということで、1.6ポイント減少しております。
次に人口動態です。左右の表で、東京都と静岡県の近年の社会増減の推移を示しております。左表のとおり、東京都の転出超過が減少し、一極集中は緩和されております。右の表のとおり、本県では、日本人の転出超過が減少し、外国人は転入超過から転出超過に転じております。
その次の移住の現状です。左表のとおり、2020年の「移住希望地ランキング」で、全年代において、本県が第１位となっております。
右の表の移住実績をご覧いただきますと、20代から40代が８割を占めております。地方で暮らすことの関心が高まっているということがうかがえます。
次のページ、資料２をご覧下さい。本年度の評価でございます。
３の評価方針です。（1）で「KPI重要業績評価指標の評価」でございます。
こちらはコロナによる影響があったものを明示しながら、進捗状況を評価しております。
このうち（2）の今後の取り組み方針でございますが、国が示した「ヒューマン、デジタル、グリーン」こちらの３つの視点、これに本県独自で、「県民の安全確保と本県経済の再生」を加えました４つの視点を中心に、課題と今後の取り組み方針を示しております。
あわせて（3）、KPIの見直しということで（2）の取り組み方針への連動等によりまして、KPIの追加変更を行うということにしてございます。KPIの評価というこちらをご覧をいただきたいと思います。

１の評価方法でございますが、指標につきましては、成果を図るものと、進捗を図るもの、というふうに大きく分かれてございます。
それぞれにつきまして、このページ、左の下の方に記載がございますが、このように評価をするということでございます。
戻っていただいて２の評価結果、どんなふうになってるか、ざっくり申し上げますと、このうちの右側の方をご覧をいただきますと、右側の進捗状況を整理した表です。
成果を測る指標の方は、B以上、そして進捗をはかる指標については、二重マル、黒マルにありますが、マルと二重マル、この２つが順調に進捗しているというふうに判断をするものとしてございます。
成果をはかる指標の方が53.1、進捗を図る仕様の方が58.6ということで、50パーセント台の数字になっております。
ただ、その下で今コロナによる影響があったものを除きますと、一番下、コロナ影響指標除くというところをご覧をいただきますと、68ないしは73.9ということで、およそ70パーセント前後が順調に進捗しているというふうに評価がされるということになってございます。
それから続いて次のページになりますが、地域づくりの方向性ということになってございます。こちらにつきましては、特に東部地域につきまして、また後程、別の資料で説明をしたいと思います。
続きまして、５ページの方の今後の取り組み方針をご覧をいただきたいと思います。
こちらに戦略の１から５につきましても個別の状況が記載されております。今後の課題と今後の取り組み方針ということで分けてございますので、今後の取り組み方針を中心にご覧をいただきたいと思います。
まず戦略１の安心安全でございますが、コロナウイルス感染症に対応する病床や宿泊療養施設の確保、新たな感染症の発生に備えた拠点施設の設置などに取り組んでいくことといたします。
また、熱海市での土石流災害を教訓に、関連条例の改正を行いまして、法令に基づいた適切な審査、指導、命令を実施していくようにして参ります。
右側、次の戦略に、魅力ある雇用の創出でございます。取り組み方針、まずヒューマンといたしまして、新しい働き方への対応のため、テレワーク推進やワーケーション環境を整備いたします。デジタルとしましては、５G等の情報通信基盤の整備や、IT人材の育成などを進めて参ります。グリーンでは、産業の構造改革といたしまして、地域企業による研究開発の支援、あるいは農業分野の環境負荷軽減に資する研究開発を推進して参ります。
めくっていただきまして、次の戦略３です。魅力ある暮らし、新しい人の流れを作るという、今後の取り組み方針といたしまして、ヒューマン、地域内観光の活性化、子育て世帯を中心に移住希望者支援でうまく対応していくこと。
グリーンでは、エネルギー収支ゼロの建築物を実現する、ZEB化等の推進、循環経

済への転換の推進等を取り組んで参ります。
次に、戦略４、結婚出産子育てのところです。
まずは出会いの機会を創出するため、この１月に県と市町が連携し、ふじのくに出会いサポートセンターを開設したところです。
そのほか保育士さんの処遇改善や、様々な要因で子育てに悩む方に対する各種相談体制を充実して参ります。めくっていただきまして最後の戦略の５、地域づくり、地域と地域の連携です。こちらにつきましては、農山村の維持、社会全体のデジタル化、外国人県民の情報入手環境の整備等、県と市町等が、地域一体となって連携して取り組んでいくということにして参ります。
そのあと、８ページ以降につきましては、KPI指標の一覧、地方創生関係交付金の実施状況一覧となっておりますので、その説明の方はすみませんが割愛をさせていただきます。
そして最後に、先ほど説明いたしました特に東部地域の内容につきまして、別の評価書本体の方で説明して参りますので、そちらをご覧をいただきたいと思います。
評価書でいきますと153ページ以降が各地域別になってございます。157ページからが、東部地域ということになっております。
こちらの東部地域の目指す姿は、日本の国土のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏をいうことになっております。その下に６つの重要業績評価指標、ここに東部地域の資料がございます。
右にコロナに影響があった指標というところの欄があるんですが、そちらに※印があるものが東部地域の観光交流客数、こちらは基準値以下ということになっておりますけれども、上から３つ、ファルマバレー、CNF、AOIの各プロジェクトの事業化件数、こちらにつきましては、B以上ということで、順調に推移しているということになっております。
具体的な内容につきましては、下段の取り組み状況に記載をしてございます。
まずファルマでは、健康長寿自立支援プロジェクトの開始や、山梨県との連携協定の締結等、CNFでは、富士工業技術支援センターへの研究開発センターの設置整備と、またAOI-PARCでは機能性の高い農作物の栽培技術の実用化がここで進められております。
コロナの影響を受けました観光交流につきましては、159ページ。下段区にあります。
富士山を初めとする地域資源を活用したプロモーションや誘客活動により、アドベンチャーやサイクルなどのテーマ性を持ったツーリズムの推進や、観光地ワーケーションの促進などの取り組みを進める必要があります。
次のページに行っていただきまして、新たな課題に対する取組方針としまして、地方移住への関心が高まっている機会をとらえ、県移住相談センターをはじめ、市町、地域団体等が連携して、東部地域の魅力と移住検討者のニーズに応じた情報発信強化や相談体制の充実を図って参ります。

大変駆け足でございましたが、この評価書につきましては、２月14日までの期間でパブリックコメントを実施してございます。
この東部の会議を含みます４圏域での地域会議、明後日の２月２日に、県民会議という全県の会議がございますが、こちらでいただいた意見を反映し、県議会の常任委員会でもご意見をお聞きした上で、年度末に最終案を公表する予定としてございます。私からは以上になります。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。今回の議事、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略（評価の概要）」については、構成員の方に、事前に郵送でお送りし、「別紙１」に事前に出た意見をまとめてあります。
別紙１は、事前に５つの団体の方々から、ご意見・ご提案をいただいておきます。これについては、先週時点で取りまとめた意見を皆様方にメールで送付してございます。事前の意見提出、誠にありがとうございました。
それでは、一応この事前意見があったんですけども、これから議事１、「総合戦略の評価」について、意見交換に入りたいと思います。今日は人数が多いので、ご発言の際は手を上げて、所属とお名前をおっしゃっていただければと思います。
それでは、今の件の説明、評価の概要につきまして、どなたかご意見ございましたら挙手をお願いいたします。
はい、それでは、事前にご意見いただいた方々の補足で、簡単にご説明お願いできますでしょうか。
最初に沼津信用金庫さん、お願いできますか。

【沼津信用金庫　小林氏】
沼津信用金庫の小林です。それでは早速ですけど、事前の意見ということで、ご提出させていただいたんですが、評価というよりかは、私どもの方で、今までに取り組んだことであるだとか、これから取り組んでみてはどうかなというところを、あげさせていただいております。
この地域の情報発信の必要性というところの観点で、近年の兼業、副業というものを上手く活用しながら、本県に人の流れ、そういったものが生み出せればいいんじゃないかなというところで、ご提案させていただきました。
簡単ですけれども以上です。

【山本　東部地域局長】
はい、ありがとうございます。富士宮商工会議所さんは今日欠席でございますので、続いて富士宮市さん、ご説明お願いできますでしょうか。

【富士宮市　篠原氏】

富士宮市です。よろしくお願いします。
私どもは、意見というよりも今取り上げているなか、重要事項として関わっている件で記載をさせていただきました。
富士山麓は、ワーケーションのポテンシャルが高いというわけですけども、この自然景観の強みだけではなく、大事にしなくてはならないと思っているのは、やはり企業。ワーケーションを行う企業が、継続的に安定的に、継続するためには、ワーケーションをやる事業者と、そしてワーケーションで来たいという企業側と継続的な契約というか、そんなことも大事ではないかなと思っております。
そんなところで、富士宮市では、大手旅行会社の協力を得て、富士山SDGsをテーマとして、企業向けのワーケーションモデルツアーを作って、ここでしか出来ない体験、また、ここでしか会えない人ということを地域資源にして取り組んでいます。
先ほど言いましたように、経営という面でいきますと、これまで保養所が富士山麓にはたくさんあるわけですけども、これからは、保養所のような形ではではなくて、こういうワーケーションをですね、保養所内の形で、福利厚生と仕事を混ぜ合わせながら、東京の大手企業との契約ができたら面白いのではないか。
また、資源ということについては、景観だとか自然ということだけじゃなくて、富士宮市にいます、里山ならではの体験ができる方、エコツアーのスペシャリスト、また富士山トレッキングのスペシャリストもおりますので、その人を繋いで、それらを地域資源としてワーケーションの魅力づくりしていきたいなと思っております。
ご参考にいただければと思います。

【山本　東部地域局長】
続きまして静岡県東部地域コンベンションビューロー様、よろしくお願いいたします。

【東部地域コンベンションビューロー　佐藤氏】
コンベンションビューローの佐藤です。
私は、そこに書かせていただいたとおり、地方に都市部から人を呼ぶ、最大の要因は、やっぱり人ではないかなと思っております。いろいろなワーケーションの先進事例等を見ますと、受け入れ体制が整っていることは最低条件としてはあるものの、やっぱり人が人を呼ぶ、人が人をまわしているというところが一番大きな要因であるということにだんだん気が付いてきています。
ですので、受け入れる我々としても、ハードやソフトの整備と並行して、そういう人を、どうやって育てていくかということを力点を置きながら、こういった取り組みを進めていくことが肝要かと考えております。
以上です。

【山本　東部地域局長】
続いて沼津工業高等専門学校　佐野さん、よろしくお願いいたします。

【沼津工業高等専門学校　佐野氏】
一般的な病気で入院したい患者もいますが、今の状況では、コロナウイルスの予防のために病院に、もし空きがあっても、受け入れてくれないっていう場合が、今後増えていくことが考えられます。
病院間で、空きの状況とか、あと、もう患者さんの、途中で転院とかってなった時に、治療の状況をすべて伝えられる環境を作っていくべきなんじゃないかなって思いました。
あと友達に聞いた話なんですけど、沼津駅の高架事業をいつまでもやっていてなかなか終わらないという話を聞いたんで、他の地域も含めてそういう、便利さを求めて投資している面があると思うんですけど、この状況下で優先して解決すべきことからやっていくことが必要でないかと思いました。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
皆さんそれぞれ、貴重なご意見いただきありがとうございます。これから議事２の方でも、皆様方に広くまたご意見伺いたいと思いますので、ここの議事については、こちらで終わりたいと思います。
皆様からいただきました、貴重なご意見は、これから地方創生施策について検討をして、今後の具体的事業への反映を目指していきたいと思います。

続いて議事２「新型コロナウイルス感染症対策を契機とした、ひと・しごとの流れ創出～魅力的なライフスタイルの構築と実践～」をテーマに、この東部地域で実現できる魅力的で快適なライフスタイルを発信し、移住定住を促進する方策のご意見をいただきたいと考えております。
冒頭最初に、私ども東部地域局の取り組みを簡単にご説明をいたします。
皆さん方お手元にテレワークガイドブックをお持ちと思います。
これは、昨年の「まち・ひと・しごと会議」で皆様方からも意見が出て、東部地域のそれぞれの市や町、関係団体さん、個別に移住関係の事業を一生懸命やっているけれども、実際に移住を希望する人は、市や町の境界線はあまり関係ないので、広域的な情報発信をもっと進めたらどうでしょうかというご提案をいただきました。
今年、東部地域局では、管内の市や町、関係団体さんとも話合って、テレワークを中心に、当地域の特徴として、「後戻りのできる移住」、「やり直しがきく移住」ともう少し移住のハードルを下げたコンセプトを作って、エリアごと大きく生活圏も踏まえて、富士山域のところが1つと、沼津・三島・清水町さんほか、東京からの新幹線通勤が非常に可能な、アクセスが良好のエリアという2つ目、そし

てあと、伊豆の国・伊東といった、観光とか歴史とか、そういったところに特色があるエリアと3つに分けて、それぞれそこで、関係する人と、そこの企業、そして移住関係をサポートする色々な支援団体と、さらに今、テレワークが肝心なので、一番後ろの方には、テレワーク施設の一覧を市や町と協力して作って、いろんな移住のセミナーであるとか、東京の方の相談センターとか、企業様向けに情報提供しているところでございますので、ご承知おきいただきたいと思います。
私の説明は以上です。
続きまして、この東部地域会議の構成員で、ご自身も子育て世代として、静岡県に移住され、新たな地域づくりに取り組まれている、一般社団法人ママとね　代表理事　中島あきこ様から、「地域と繋がる魅力的なライフスタイルを構築するための取り組み」と題して、事例紹介をいただきたいと思います。
それでは中島様、ご説明をお願いいたします。

【ママとね　中島氏】
ありがとうございます。よろしくお願いします。
１０分ほどいただいておりますので、私自身が子育て世代の移住者として入って来て、「ママとね」という子育て支援団体を立ち上げてからの活動について、何かのご参考になればと思ってご説明させていただきます。
まず「ママとね」という子育て支援団体をご存知ない方もいらっしゃると思いますので、簡単にどんな活動しているかですが、メインのものが、ウェブサイトを持っておりまして、子育て支援関係のイベントだったり、あとは支援団体さんの紹介です。ウェブサイトだけでは情報が届きにくいので、各種SNSを使っていて、SNSのフォロワーが延べで6,000人ほどおります。
あとは、子育て応援等への事業、イベント、それと親子サークルです。あと去年の11月から図書館施設作りを始めました。
少しこの辺を簡単にお話しさせていただきます。
最初のこの活動の原点は、私が2009年に、当時４ヶ月の第１子を連れて首都圏からこちらに、夫の転勤で来たので、全く知り合いのいない状態でこちらに行きました。ここで、孤独育児を経験しているんですね。
今はもう少しいいんですけれども、当時、2009年の時点で「三島子育て」とWEBで検索をかけても、三島の子育て支援しか出てこなくて、私の欲しかった情報は、どこに行ったらお友達ができるのか、子連れでどこに遊びに行ったらいいのか、要は、その地域に繋がるための情報が欲しかったんですけど、全く得ることができませんでした。
それで、私は１年ちょっと位、ずっと孤独育児でした。母親はもう他界していて、夫の実家も遠いということで、本当に孤立無援で子育てを最初しましたというのが経験としてあります。
私の場合は、徐々に子育て支援サークルに、それも情報がなかったので、情報のないまま、やっと入って、そこで運良くお友達ができたので、ゆっくり繋がりが

できたんですけれども、私のように東部地域は、転入する方、出産とか夫の転勤とか、結婚とかを契機に外から来る方も多いと思われたので、同じような子どもがいる母親がいるんじゃないかと考えて、「ママとね」という支援団体を立ち上げる時は、その繋がりを作ることをすごく大事にしました。
２つ大事なものがあると思っていて、１つは情報提供、もう１つは居場所づくり。この情報が家に居ては入らなかったので、どこにもアクセスできなかった。この居場所というのは、当時も親子サークルが実は結構あり、それが私は外から入って来た人間なので、口コミもなくて、どこにも行かな人は、繋がらないから情報が入らないと、口コミベースで動いてる地域だと、本当によそ者には情報が届きにくいんです。
ということで、2014年に友人と２人で、最初に子育て情報を「場所」は実はあるので、これを届ける情報に特化した団体を作ってみようと思って始めたのが、「ママとね」です。なのでウェブサイトから始まっています。2017年に法人化いたしました。
振り返って、子育て層から見た東部の魅力を考えますと、自然が豊かだとか、空気がおいしいとか、キャンプ場が近かったり、固定費も安いとかあるんですが、やっぱり一番は、人が繋がりやすい規模感。
ただこれがくせ者で、繋がりやすい規模感だからといって、そこに入れたら自動で繋がるかというと、当時の私みたいに全く繋がりが持てないことが、出てきているわけです。なので、繋がるためには仕組みとか、仕掛けが必要だと考えます。
この後は、簡単に今の「ママとね」の事業を紹介させていただきます。
まずその情報発信をすると、地域を知ってもらうということ。転入した人でも、地元の人でもそうなんですけれども、内容として、お母さん方が必要な情報、我々一緒にやってるものが、子育て中なので、当事者だから分かる視点やニーズを大事にしております。
例えば、すべり台の情報も、ただの公園情報は実はあちこちあるんですけれども、おむつ替えシートがあるのかとか、このすべり台の高さも。小さい子と小学生が使う水が違うんです。その辺の情報、あるいは駐車場は十分あるかとか、自動販売機があるかとか、これも子供は結構水筒の水を飲でしまうので、次ぎ足すためのコンビニがあるかとか。あとは日除けの屋根があるかとか、そういうのも結構大事ですけど、そういったものを含めて情報発信しています。
また絵本情報を、これも実際たくさんありますが、我々の場合は、地元の沼津にある絵本専門店のグリムさんとタイアップして、実際に人につながれる、本をもっと知りたかったら、ここのお店に行ってねっていうふうに繋がるようにしています。
あと届け方ですね、お母さん世代・子育て世代が、どういうデバイスを使ったら、どういうツールを使ったら情報が届くのかということで、一つはウェブサイト、このアクセス解析見ると、もちろん県東部が一番多いんですが、静岡市とか

世田谷とかからも結構閲覧があります。
なので、どこからも見れるWebサイト、それからSNSですね、これも時代の流れに合わせて、我々始めてもう７年ちょっと経ってますけど、どんどんツールを変えています。その結果、今はだいたい延べ6,000人ぐらいフォロワーがいるということです。
あとは、色々な地域の色々な団体さんのイベントも載せてますけれども、我々自体もイベントを実際に企画運営して、地域のイベントに参加してもらう機会というのを作っております。
三島市さんとも一緒にやってる官民合同の定期イベントを、日清プラザ・イトーヨーカドー三島店で三島市と我々と持ち寄りで、いろんな催しをやって、2016年から毎月、10月に５日間連続でやっております。
それ以外にも、これはサバソニさんという、海洋プラスチックの問題なんかを熱心に取り組んでる団体さんと沼津の海で地域を知ってもらうイベントをやっております。
これが今までやってきたことなんですが、新型コロナ感染症がまん延して、本当に人が繋がることが難しくなったときに、もう一度基本に帰って、繋がるということに大切な二つのことは何だろうと考えましたときに、一つは、常在性。いつそこに行っても受け入れられてもらえる。それから多様性。私と同じと書きましたけれども、特別な人だけがウェルカムされる状態ではなく、どんな人も迎えられる、そういう仕組みが大事だろうと思います。
これを考えたとき、もう一歩先の繋がる仕組みを作ろうと始めたのが、繋がる図書館と書きましたけど、「一箱本棚オーナー型の施設図書館」。実はちょうどNHKに、先週の土曜日、２日前ですか、お昼ぐらいにNHK静岡の#しずきゅんという番組で特集していただいた中に、図書館もあったのでご覧なっていただいた方もあるかもしれません。
これは焼津の、みんなの図書館さんかくという、20代の若い方で、土肥さんという方が考えられた仕組みでです。今全国で同じようなものが20館ほどあります。１箱１箱にオーナーがいて、月2,000円で借りて、自分の好きな本を並べて、借りる方は無料。ちょっと面白い仕組みですが、見に行くと、私もこの本好きだなとか、この人の本のラインナップ好きだなあとか、何かこう自分と共通のものを見つけられる、そういった多様性に満ちた場所になっております。今本棚オーナーの方が45人ほどいるんですけれども、この「ママとね」の事業として繋がった、本当にいろんな老若男女の方、あとはSNSで知った移住者の方も、１年未満ぐらいの移住者の方も、オーナーさんでいらっしゃいます。使われている方は、子育て層、地域の一般の方々と、今まで繋がることになった、かなりたくさんの方が使ってくださっています。
利用者の内訳は、これは実際に本を借りるために登録した人。利用者の声、こちらは、登録しはしなくても、ただふらっと来た人も含めて、どういう方が来てるか聞くと、県外の人は仕事で、東京の人たちは定期的に三島に来てますとか、あ

と旅行で来たんだけど、検索したら面白かったので寄りましたという人なんかもいます。
近隣の方は、結構SNSで知ったという方がいらっしゃる。本当いろんな人が集う「場」になってるなと思います。
それで、場があるということで、色々な繋がり方が出来ると思っていて、この11月にオープンしたばかりなので、今後育てていきたいなと思っております。
以上となります。ご清聴ありがとうございました。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。こちらの議事２に関しましても、事前に皆様方からご意見をちょうだいしております。
別紙２に、５人の方々から事前にご意見をいただいております。こちらも事前に先週メールで送付させていただきました。事前の意見ありがとうございます。
それでは、この議事について、意見交換をやりたいと思います。
できれば多くの皆さんにご発言いただきたいので、発言されるときは、３分以内ということで、発言の際は、画面の中で手を上げていただき、こちらで指名をしましたら、団体名とお名前をおっしゃっていただくようお願いします。
それでは今、中島さんから子育て・保育の関係もあったので、これも含めて、全体で、どなたかご意見がございますでしょうか。
もしありましたら挙手をお願いいたします。

先ほど県の方からもありましたが、子育て世代を含めた移住の促進は、ヒューマンという分野の中でも、まち・ひと・しごとの方針に入ってます。
なのでこの辺り、社会福祉法人伊豆社会福祉事業会の木下様、子育て世代の受け入れとかについて、何かこのあたりの情報で、活かせるご意見ご感想とか、ありましたらお願いしたいと思います。

【社会福祉法人伊豆社会福祉事業会　木下氏】
伊豆社会福祉事業会で、お年寄りを、自立の方、そして介護のある方、ご一緒に受け入れております玉沢昭寿園という老人ホームの園長の木下でございます。
今の「ママとね」さんの発表、素晴らしい発表を拝見して、実行されているのに感銘を受けております。
老人介護はこのコロナ禍で、リモートでできない仕事の最たるものではないかなと思っております。皆さんのお宅にも、おそらく介護されるお年寄りの方、あるいはこれから介護の必要な方がいらっしゃると思いますけども、子育てと同じように、お年寄り育て、高齢者育てという会をやってもいいのかなと思います。
老人クラブとか、人材センターとかそういうのではなくて、高齢者育て、これまで子育て世代とおっしゃいますので、今度は、老人育て世代というようなことで、お年寄りが、やっぱり幸福でないと、みんなが幸福になれない。子供からお

年寄りまで幸福でないと、幸せでないと思いますので、ぜひ、高齢者のことを考えていただいて、この分野は本当にリモートでできない最たるものじゃないでしょうか。人の力がいる、人の手がないと介護ができない。
県の方々、医師の方々が、介護職員が増えていただくように協力をしていただいてますけれども、やはり、みんな幸せでないと。お子様も学生もお年寄りも幸せでないと、世の中、うまくいかないと思いますので、年寄り育てを考えていただいて、みんなが幸福になるように、コロナ禍のなか、本当にどこの事業所も大変だと思ってます。人類が大きな試練に立たされているのかなと思ってますから、これが終われば素晴らしい世界が来るのかなと、期待をしてますけども、自分たちが努力をしなければ来ないわけですから、ぜひ、テレワークでできない、お年寄りの仕事にご理解をいただいて、11月11日は、介護の日ということで、全国の皆さんにお知らせするように、静岡県でも、浜松、静岡、三島の新幹線の駅で、老人ホームの職員が、一生懸命皆さんにPRしながら、介護にご理解をいただこうということで、行っております。介護だけでなく、高齢者に対しても、私たちも一生懸命PRしながら、一生懸命生活していただく、幸せになることに努力をしていきたい。
地域の皆さんも、高齢者はいらないではなく、高齢者も役に立つということで、役立たせていただきたいと思ってます。
コロナが鎮まったら、本当に素晴らしい世界ができるように、ご協力をお願いしたいと思っております。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
それでは直接、この保育に結びつくかわかりませんけども、同じ移住者ということで、地域づくりを担当されている株式会社結屋の川村さん、もし何か今の保育関係で、子どもの受け入れ、外から居住者の方々が地元の住民の方と、どうやって関係をつくっていくか、こういったことに対して、もし何かご意見ご感想ありましたらご紹介いただけますでしょうか。

【株式会社結屋　川村氏】
ご指名いただきありがとうございます。株式会社結屋の川村と申します。
保育につなげられるかは分からないんですけども、移住定住の取り組みをされてる事業者さんが知り合いにいるところから、その地域を知る取り組みとして、そういったコミュニティの紹介をするのも一つですし、あと何か地域のアクティビティを、あわせて紹介されてる方も結構いらっしゃるなと見受けられます。
そんな中で、伊豆地域では、今まで取り組みの中で、海、山という地域の体験コンテンツをまとめたサイトが、以前事業としてあったり、JRのディスティネーションキャンペーン等で、各市町が出されて体験コンテンツとか、あと海ジオとか、ジオパークで、それぞれの地域を知るというコンテンツを、かなり観光分野

で作られてきたんではないかなと思っています。
そういった観光コンテンツを、この移住定住の情報とうまくセットしながら、まちを知るとか、地域を知るような取り組みに、つなげていくことが出来ないかというのは、一つ思うところがございます。中島様も、先ほど、その地域を知ることが、イコールそのまちで暮らす豊かさに繋がるみたいなことをおっしゃっていたところもあるので、出来れば是非、今まで県・市・町で取り組まれてるそういった地域を知るようなコンテンツを、移住定住策とも組み合わせて、うまく活用いただけるといいのかなと思いましたので、一つ、ご意見として伝えさせていただきます。
あともう１点は、ちょっと保育に繋がらないんですけども、大企業の知人がいまして、その企業の人から移住で職を変えずに移住できるのであれば、かなり前向きに考えたいという中で、移住する際の手続きが、かなり、煩雑であるということで、例えばワンストップで、リモートで遠隔からオンラインで全てその手続きが済んでしまう、窓口にいちいち行かなくても済むような、ワンストップで情報収集から手続きまでが行えるようなことは出来ないかみたいな話がありました。
例えば県が音頭をとっていただいて、そういった地域連携の統一のシステムを開発していただくとか、そのワンストップの仕組みづくりみたいなものが、県の方針としても、デジタル化を推進されていくというのがありましたので、そういった手続きの簡略化であるとか、オンラインで済ませることが出来るようなことも、今後検討していただけるといいかなと思ったので、そちらお伝えをさせていただきます。
あとは、先日、沼津の高専さんで取り組まれてる、地域創生交流会というのと、議員連盟の合同フォーラムというのに参加をさせていただいたんですけども、その中で、沼津信用金庫さんの「ぬましんCOMPASS」に入っているオフィスと、あとその企業さんの情報と、あとプラス創業支援を、高校生とか、生徒さんたちへも、与えてもらえた方がいいんじゃないかということで、今後そういった情報共有して、そういうものにつなげるようなことを行っていきたいという話を伺ったので、ぜひ、高専さんのそういう取り組みは、すごくいいなと思いましたので、県内の他の市町の高校とか中学にも、そういった商業の教育であるとか、創業機会を体験できるようなプログラムとかを広げていただくと、よりこれから、多様な生き方とか、例えば就職だけが未来ではないので、そういった起業にも繋がるような教育というものを県全体ができるといいのかなと思いました。
いただいた内容に繋がるかわかりませんが、以上になります。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。今の話の中でありましたので、沼津信用金庫さんに事前にご意見をいただいてますけども、今の川村さんの話の流れも含めて、何か今、このエリアで人の流れの創出に取り組んでらっしゃること、課題とか、そういったことがあれば、ぜひこの場でご紹介いいただけますでしょうか。

【沼津信用金庫　小林氏】
沼津信用金庫の小林です。
そうですね、今皆さんからお話があったとおりだと思うんですけど、そういう、大都市圏であるだとか、静岡県以外のところで、非常に注目や関心が集まってるという中では、さらに、地域を知ってもらう情報発信というものが、やはり重要なのかなと思っていますし、あと、併せて静岡県に移住・定住を決めていただくところについても、やはり仕事等の収入というところがないと、対象というふうにはなってこないと思いますので、我々が、その情報発信というところでは、旧営業店舗の利活用というところで今、ぬましんCOMPASSいう、まちづくりのプラットフォームのところで、起業創業だとかシェアオフィスだとか、そういうものを展開して、いろんな地域創生、地域活性に関わる人たちに、色々なトークイベントなどに関わってもらいながら、沼津地域の情報を発信しているところでございます。
本年度については、静岡県さんの事業の中の取り組みですが、東京都、横浜市にあるシェアオフィスの入居者の方と、我々、沼津の方々、あるいは私どもの職員の交流というものも、年度内に今予定をしております。以上でございます。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
今、管内の企業の皆様のいろいろな取り組み、そして、できれば地元の方々の起業するというような取り組みも必要じゃないかということで、お話がありました。
今、画面共有いたします。「第３回若手起業家熱闘スタジアムの開催」ですが、東部管内で、移住も含めて、ご自身で本当にいろんなことをやられて、起業している方々が、沼津・三島含めて色々なところにたくさんいらっしゃいます。
この方々は、金融機関さんとも連携して、色々な活動をやってると思いますけども、東部地域局で、こういった方々が、企業と交流する機会を作りたい。そうすることで、新しく事業の立ち上げとか、ビジネスチャンスが広がるんじゃないかと。
こういう形で思っていて、ちょうど先週の１月21日に３回目をオンラインで、これを対面でやりたかったんですけど、企業の方が32名出席していただいて、今、高専さんの学生が、自分たちが考えている、いろんな事業のプランを発表し、それについてご意見をいただいたりしました。
過去２回やってるんですけども、積極的に地域として、こういった新しい取り組みをやろうとしている方々、こういった方々を金融機関さん含めて、地元の方で上手く彼らの活動をサポートする。なかなかお互い個人で活動するの難しいので、そういった方々が情報交換できるような、何かそのような場面を提供していけたらいいなと。これも今後、地方創生の中で、東部地域のポテンシャルとし

て、考えられるんじゃないのかなと思っております。
地元の民間企業さんの取り組みとかも非常に重要なんですけども、三島信用金庫さん、移住関係とか、副業とかも含めて、何か今取り組んでいることがあったら、ご紹介いただけますでしょうか。

【三島信用金庫　山本氏】
三島信用金庫元気創造部の山本です。よろしくお願いします。
私どもの関係ですと、地域と地域企業に対する、特に若年層の関心を集めまして、地元で働きたい暮らしたいという、その地域愛の醸成を目的に、地元高校新聞部と連携して、「まち・ひと・しごと新聞」を、2016年より年１回発刊しています。高校生が、地元で活躍してる企業を訪問して、企業の魅力や強み、あと地元への貢献について、紙面を通じて伝えております。現在、韮山高校、沼津東高校、熱海高校、日大三島高校が分担して作成した原稿を当庫と、東部地域局にもご協力いただきまして印刷し、参画の高校の全生徒に配布しており、また静岡県の公式ホームページ、あと各高校のSNSでも情報発信しています。
今年度につきましては、副業、兼業あるいは地元で独立開業した方、いろいろな変化の中で、いろいろなニーズが変わっております。単に金融機関に勤めるだけではなくて、みずから創業したとか、兼業、副業で活躍してる方、地域に貢献してる方にスポットを当てて、事業者に対して取材の方をしております。
以上です。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。それでは東部の企業の集まりで、企業に沢山の人が来てほしいという中で、静岡経済同友会の東部協議会　大野さん、企業の状況や考え方とか、企業の方は今どのような形で、どんなことやってるかとか、もし何か情報がありましたら、ご意見いただきたいと思います。よろしくお願いします。

【静岡経済同友会東部協議会　大野氏】
静岡経済同友会の大野と申します。今日はありがとうございます。
一つは、私が考えることなんですが、移住の件で最初のご説明の中に静岡県の転入者が、全国１位だったというお話がございましたが、どういう理由で転入されてきたかというのが非常に重要だと思ってます。
昨年度の住みたい県ランキングでは、東京が１位、神奈川が２位、そして、静岡県は何と９位に入ってるんですけれども、私の記憶違いでしたら大変申し訳ないのですが、30年ぐらい前ですと、住みたい県が、１位が京都府、２位が静岡県だったと思います。
ここ数十年で、人々の意識がどのように変わってきたのかというのも、検証が大事だと思っております。
もう１点は、先ほど三島信用金庫さんのお話がございましたが、昨年、東京のあ

る上場企業さんが、副業が可能だということなので、伊豆地域の企業と、ビジネスマッチングということをされてました。
この時には、伊豆地域の企業さんが、私はこういうことをやりたいので協力してくれる人がいないだろうかということで、プレゼンをして、それに協力ができる東京の企業さんの社員さんが、ビジネスマッチングということで、協力をされていました。
東京の社員さんたちは、どういうところで自分の副業ができるかというのが、なかなか見つけづらい部分もあるかと思っております。その人たちがビジネスマッチングして、伊豆の企業さんと一緒に仕事をした中で、非常に有意義だったというお話をされておりましたので、そういうマッチングをこれからもどんどん進めていかれたらいいのかなと思っております。
とりあえず意見として、以上でございます。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
今ちょうど、この東部地域のおそらく、沼津・三島エリアのところが中心なんじゃないかなと思いますけども、この移住の関係を富士、富士宮でも、移住者が非常に多く、それで地元の富士市、富士宮市もワーケーション、テレワーク等色々な取り組みをやっています。
なので、富士エリアの信用金庫の方々で、こういった企業の移住が増えていくことへの取り組みで、何か今やられてることがあったら、富士信用金庫さん、そして富士宮信用金庫さん、ご紹介いただけると、ありがたいなと思います。最初に、富士信用金庫さん、何かコメントありましたら、よろしくお願いします。

【富士信用金庫　渡井氏】
当金庫では、富士市さんと連携して、移住・定住の取組の応援、それと「はぐくむFUJIオフィシャルサポーター」ということで、少子高齢化に向けた事業へのご協力をさせていただいております。
「はぐくむFUJI」の事業については、これから、いろいろご協力させていただきますが、今のところスタンプラリーへのご協力をさせていただいております。
移住・定住につきましても、コワーキングスペースについて、「WORX富士」を使った活用ということをさせていただいております。

【山本　東部地域局長】
続いて、富士宮信用金庫さん、いかがでしょうか。

【富士宮信用金庫　小池氏】
当金庫では、平成６年９月に「公益財団法人みやしん地域振興協力基金」という財団を設立して、その中で富士宮市及び富士市における、地域社会の活性化のた

めの支援を行っております。いくつかの項目に分かれていますが、地域の社会福祉に関する活動の助成ということの中で、様々な方の助成を行って、富士宮に住みやすい、移住に関しても移住しやすい富士宮をつくれるような助成をしております。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。ここで今、テレワークも、富士市さんで非常に一生懸命やっていらっしゃるので、行政の立場で、富士市さん、何か今、テレワークで考えていることがあったら、お話いただけますでしょうか。

【富士市　米山氏】
富士市の米山です。お世話になっております。
富士市では、テレワークの推進ということで、テレワーク推進ロードマップを作って取り組みを進めております。
まず、テレワークの推進についての課題ということでお話がありましたが、企業さんも比較的テレワークに対して積極的に取り組んでいただいている中、これをどういう形で継続的に実施していただけるか、あと、このテレワークの推進を、企業の競争力強化や、生産性向上等にどのように結びつけていくのかというところが課題となっております。
その中で、富士市としては、民間企業や関係団体の皆様と協力して、テレワークについて相談をさせていただいております。以上となります。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
企業の方々は、非常に重要な役割なんですけども、例えば労働という観点で、連合静岡　沼駿三田地域協議会さん、移住、テレワーク、こういった傾向に関して、企業の中で、今の考え方であるとか、対応方法とか、そういったようなことが分れば、ご案内いただけると助かりますけども、いかがでしょうか。

【連合静岡　沼駿三田地域協議会　杉本氏】
連合静岡　沼駿三田地域協議会の杉本です。各企業の情報と言いますと、私ども労働組合が組織されている集まりが基本になっていますので、この静岡県東部近隣ですと、基本的にテレワークといいますと、在宅勤務が主な対応方法だと見ています。
そして、この静岡県東部におきましては、工場部門といいますか、製造を担うところが多いということで、基本的には、その製造に関わることは、実際に出勤をしなければ業務ができないという状況にありますので、そういったところでは、実際、テレワークというものは出来ないという状況だと考えています。
ただ、働き方の多様性というものを、労働界でも当然求めているということにな

りますので、私どもとしましては、この近隣の行政に対して、行政要望という形で、先ほど出ておりました、雇用のマッチングの話とか、Iターン、Jターン、Uターンへの対応、企業誘致の対応、それから、もちろんテレワークに関わるものの環境を整えていただくよう要望をさせていただいている状況です。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。企業の方々がテレワークを進める時、行政の方でも盛んに補助金出したり、色々な環境を整えております。またこの辺り、後程、議論があるかもしれません。
ここで今、企業の人材をどうやって移住でうまく地元にマッチングするかという話もあったんですけども、今度は逆に地元の方として、教育的な観点であるとか、このエリアの課題として、学生などの若者が、ここから出て行ってしまうので、戻ってきて欲しいという、そこの観点が非常に重要ではないかと思います。ヒューマンの部分ですね。
なので、ここから委員の方々に少し教育、そして学生の観点から、どのようなことを思ってるか、お話を聞いてみようかと思います。
最初に教育ということで、佐野日本大学短期大学の佐藤学長様、教育、ひと、という観点で、もし何かご提案ご意見ありましたら、頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

【佐野日本大学短期大学　佐藤学長】
私は、伊豆地域振興研究所の理事長をしてますので、またその観点からも、お話したいと思います。
先ほど、「ママとね」の中島さんの話、非常に印象的でした。それから木下さんの話もよかったですね。やはり多様性ということがキーワードになるかなと思います。
多様性ということで、俺たちは銀行だ、俺たちは製造業だ、俺たちは行政だ、ではなくて、ありとあらゆる人が、人間として幸せを求めるということをやれば、非常にいいかなと私は考えております。
だから、外国人の受け入れで、インドだから、中国だ云々ではなくて、持ってる人間としての資質をいかすことをする。それと、外国から見ても、この伊豆、東部は素晴らしい地域と思います。
そして、子供たちに、学生に今いろんなことされてるのは、学生個々の能力を、潜在的な能力をいかに生かすかということで、我々大人が、その学生たちの潜在性を引き伸ばすことによって、地域を支える、こんな形にしていきたい思います。
そして、少し話が別ですが、静岡県の総合計画審議会の委員もしているので、そこで話したんですが、移住が先ほどの局長さんの話で、京都、静岡よかったが今は他に移っている。なぜか。それを私は調べました。

そうしましたら、静岡の魅力である自然の景観がだんだん損なわれているんですね。まず川が死んでしまっている。私が行くところは狩野川ですけども、狩野川は、昔は鮎釣りのメッカだったんです。鮎釣りの友釣りは、狩野川から始まったんですね。ところが今、狩野川に全く鮎がいない。修善寺も長岡にも昔はいっぱい鮎がいました。こんなに川が死んでる。実は、水が汚れてるんですね。ぜひ、水質検査をしていただきたいなと。
それから、結論ですけれども、大学、行政、企業が一緒になって、さっき言った多様ですから、力を合わせればいいかなと思います。
それから、山が死んでるんです。もう所有者が分らないんですね。ですから、私の家の近くにも猪は来るし、鹿は来る。どうしようもないんです。ところが、彼らと共生がなかなか出来ないですね、畑を荒らしてしまいますから。ですから、もう一度、山をよく見て、良くしてやると。
実は私の教え子のお父さんが、栃木で循環林業をやっていまして、そこでは下刈りから、伐採まで行い、そしてそれを合板にして、インランドポートといって、栃木には海ありませんけども、海外にどんどん木材を輸出している。そこでは女性が、合板を機械化して全部やっている。私は大学生をそこに送って学ばせたいなと思っています。
それから、海が荒れています。これは人類の危機であります。これも県の方に言ったんですが、テトラポット、私は世界を回って歩きましたが、ヨーロッパにはテトラポットがありません。醜いからです。ところが日本の場合には、北海道から九州、沖縄まで全部テトラポット、あれは海藻が育ちません。それで、伊豆をちょっと回りましたが、数カ所だけ自然石を使って海岸を保護しております。
人間が住みやすいのは、やはり海藻がないといけませんから、そこに、どうすればいいか、企業や大学も研究しています。
どんなテトラポットがいいのか研究してますから、それを新たな時代、50年、100年先を見据えて、やはり住みよい社会を、それが知事さんの言う、命の大切さ、水は生命ということに続いているのかなと思います。
この伊豆のすばらしさを世界に、私の知り合いの中国から、アメリカから、ヨーロッパから、伊豆は素晴らしい所であると世界から来たくて困っている。ところが、50年前と全く変わって、今、衰退しています。
話は戻りますけども、「ママとね」の中島さんのお話ですけども、やはり孤独な人、来たい人、そういう人たちが満足するような、伊豆は懐の深い世界になるかなと思います。富士山があり、箱根があり、天城山がありますから。
今度是非、若者に伝えたいですね、下草刈りから、根本が失われたら学生たちは分かりませんから。私は栃木県の佐野の方では、学生たちに、食育、子育て、栄養、医療事務、そんなことを一生懸命やっていく教育をしていく。私は、若者の潜在力を生かすことが、この日本の再生に続くかなと思います。

【山本　東部地域局長】

ありがとうございました。
これから学生の皆さんに聞いてみたいと思います。最初に日本大学国際関係学部勝又さん。学生の立場で、東部地域で勉強されて、これから就職だと思いますけど、これから、若者が住んで、よりよい社会になってくために、若者が外に出てもまた戻って来てくれるように、今の若者たちの意識や、これからどうしたらいいか、示唆をいただければ、ありがたいと思います。よろしくお願いします。

【日本大学　勝又氏】
日本大学国際関係学部の勝又です。私は今、４年生で、昨年度と今年、就職活動を行っていました。
その際に、オンラインでの面接やPR、動画を作るなど、今までにない傾向で、不慣れなことが多くて、とても苦労した覚えがあります。その中で、東京や大阪の大学に行っている友達で、コロナの影響で都心に住むことで、たくさんのデメリットもあるので、この静岡県、地元に戻って来たいという子も沢山いました。
その中で、東京にいると、静岡の企業の情報や就職活動の情報が、なかなか入ってこないという問題点が挙げられました。
私から、提案したいことがありまして、LINE等のオープンチャットを県や市で作成し、就活生同士の情報交換や静岡県の地元の企業さんの募集情報を、そこで提供していただくことが、都心部に住んでる方のいい機会になるのではないかと思いました。
実際にLINEのオープンチャットというものがございまして、そこでは、匿名で、不特定多数の方たちが、参加しているんです。就活のグループですと、ここの企業でインターンが何月何日から始まりますとか、何月何日に募集がありますということを誰かが情報を載せてくれたり、その面接に良い情報を載せてサイトをアップしてくれたりしていて、私もそれを活用させていただきました。
しかし、これですと、色々な県に住んでる人の情報が入ってくるので、やはり静岡だけの情報はなかなか載ってこないので、それを市とか県で活用していただくことで、もっと限定的な情報を得られると思うので、それを是非つくっていただきたいと思います。

【山本　東部地域局長】
それでは、沼津工業高等専門学校の佐野さん、よろしくお願いいたします。

【沼津工業高等専門学校　佐野氏】
沼津高専の佐野です。沼津高専では、年に何回か、地元の企業の方を中心に、学校にお招きするとか、就職活動に向けて、企業の方に、事業を紹介していただく機会があるんですけど、やはり、そういう機会がないと、どうしても大企業に目がいってしまったり、そもそも地元の企業で何をやっているかってのがよく分からない状況です。なので、そういう地元での就活の場というのをもっと増やして

いけば良いんじゃないかなと思います。
その地元の企業ならではの良さをもっと前面に出して紹介していただければ、地元の企業の中でも、これいいなと思うことが増えて、地元での就職が増えて行くんじゃないかなと思いました。

【山本　東部地域局長】
学生さんたちの率直な感想、ご提案、ありがとうございます。
今回移住の中で、企業の見方、そして保育とか、それと移住に関しては、情報提供も色々な観点があるんですけども、実は先ほど冒頭にご説明いただいた、「ママとね」の中島さんから、事前にいろいろと移住や教育のこともご意見があるようにお伺いしてますので、「ママとね」の中島さん、言い足りていなかった分、簡単にポイントだけ、ご提案あればご紹介ください。よろしくお願いします。

【ママとね　中島氏】
ありがとうございます。そうですね、子育て層と大きく言ってしまいますけど、子供の年齢によって、大事に思う移住のポイントは、結構違うと思っていて、それを一緒くたに発信しても、なかなか届かないかなと思っています。
例えば未就園児であれば、その自然が豊かであるとかが重要なる。それは東京には無いものなのでいいんですけど、これが小学校、中学校あるいは高校に上がっていくと、やっぱり学習面が、私も首都圏に長くいたので思うんですけど、どうしても静岡が田舎だと見てしまいますので、大丈夫なのかと、そこが不安だから、東京から離れられないような人たちも、実際私たちの友達にも、子供の教育のために地方に行くことを嫌がる方は、いらっしゃいます。
ただ、実際に静岡に来てみて、決して静岡が劣るということはなくて、特徴的な色々な取り組みをされてる学校さんもありますし、例えば、小学校であれば、うちも普通に公立学校に通ってますけれども、ICTとか非常に進んでると思いますが、これが全然発信されてないのが本当にもったいなくて、先進的な取り組みで、まだまだ数校であっても静岡でこういうところに力を入れていて、やってる所があるというのがわかれば、親御さんたちの不安は、もっと減ると思います。
例えば、先ほどの三島信用金庫さんの地域の動向とか、高校の方と組んで色々な企業訪問されてるとか、こういったものが東京の、例えば私立の中高であれば、やってることは非常に大々的に宣伝して、その生徒さんたちの誘致のために、情報を十二分に使ってる。
でも、全く出してないのが非常に残念で、例えば、東部として全体で、こういった取り組みがありますよということを、子供の教育という切り口なのか、子育てとか、そういった情報の中に出していく。
こういう色々な取り組みがある地域なんだと、地元の学校に出しても、うちの子は色々な体験ができるなと、逆に東京でなくても、こんなに色々なことが出来るんだというのは、もっとアピールした方がいいと思うんですね。

また今、非常に注目を浴びてます探究的な学習も、自然がありますし、生産者も近くにいたりとか、この地域の色々な資源を使っていけば、色々なことができるはずで、実際に取り組んでる団体さんや、学校さんがいくらでもあるはずなんです。
そういったものを、もっと上手くアピールして欲しいなと思います。
そうしたら、子育て層の不安もかなり減りますし、例えば、この東部、特に三島近隣でしたら、仕事は東京に行ったまま、子育ては、県東部にすることは十分できます。
周りにも新幹線通勤してる人はいっぱいいますので、途中で東京に子供を出したいとなった場合も出せます。新幹線がありますので、高校、大学になってからでも十分考えられるので、小さいうち、自宅の周辺の学校に出してあげないといけない時期に、これだけの高い教育が受けられますというのを、もっとアピールしていただいたらいいんじゃないかなと思いました。
以上です。長くなってすみません。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。それでは、ここで東部地域コンベンションビューローの佐藤さんの事前のご意見で、若い世代や子育て世代だけではなくて、都市部の方とも関係接点が増えて、従来型の移住・定住とは異なる形かもしれないということで、この辺りの説明も含めて、今こんな変化があるとか、こんなふうにしたらいいとか、ご意見があったら、よろしくお願いします。

【東部地域コンベンションビューロー　佐藤氏】
ご指名ありがとうございます。
色々な皆さんがお話をされていたように、移住する、あるいは定住をするきっかけとなる窓口が、行政だと複数の部署に分かれていたりですとか、情報発信についても、例えばワーケーションだったら観光部門、移住定住だったら企画部門という形で、連携が全くとれていないということはないにしても、ユーザー目線で言うと、やはりバラバラに見えてしまうというご意見が色々な方から出されていたかと思いますので、若者だけ、子育て世代だけではなくて、シニアの方も含めて、色々な形で、色々な方が、地域に関わっていただくということを進めて行かないと、おそらく、この地域は、他の地域に比べて相対的にポテンシャルが下がってはないんですが、他の地域が上がってる分、差が埋まってきているという実感はありますので、そこを今回、行政の皆さんも沢山参加されておられますので、もう少し連携を密にして、一つの窓口で、来ていただきたい皆さんに、きちんと情報なり手続きをお届けするような仕組みが求められているのではないかなと思います。

【山本　東部地域局長】

ありがとうございます。今まで結構色々なご意見が出ました。
ここで報道関係ということで、静岡新聞社静岡放送株式会社、石部さんにサンフロントということで、この東部地域全体のことを提案するというお立場でいるので、移住、関係人口の創出、この辺りを、今どのようなことを考えているか、お聞かせいただきたいと思います。

【静岡新聞社静岡放送株式会社　石部氏】
静岡新聞社の石部でございます。意見ということで、今いろいろご意見を伺った中で、感じたというか、考えておりますところは、二つございまして、入ってくる方で、移住と観光を、もう少し分けていただいた方がいいかなと。
それで、企業誘致、それから移住ということになると、やはり、さっき中島様とか、木下さんが言ってたように、ここでの生活がありますので、企業の利便性ということだけではなく、小さいお子様もいらっしゃいますし、老人の方もいらっしゃいますので、ここで生活するということをもう少しお伝えした方が、いいんじゃないかなと思っております。
それともう１点、今度、こちらの方から人が流出しないことがあるんですけれども、先ほど佐野日大の佐藤先生が言ってらっしゃったように、意外に我々は、自分の住んでるところを知らないというか、だんだん悪くなっていたり、いろいろ変わっていたりすることについて、知らないなということがございましたので、そういった意味で私たち自身が、やっぱり自分の地域を知る、良さを知ることも大事じゃないかなと思いました。
それから、皆さんは、色々なことを伝えると言ってくださっていましたが、意外に何か物を伝える事は難しいのではないかと思っています。情報だけを伝えるのは、デジタル、SNS、Webで良いのではないかと思いますが、やっぱり、ここに住んでどうなるか、例えば人のぬくもりであるとか、近所の人のきずなとか、そういったものというのは、どうしてもアナログでないと伝わらないんじゃないかな思いますので、情報提供というと、すぐにウェブとか、SNSっていうのに飛びつきますが、それだけではないのでないかなと思います。
知識はデジタルで伝えられますが、知恵はやはりアナログでないかなと思っております。あとは、特にこれから、こちらの地域にいらっしゃる方は、若い人だけではないということです。若い人が来れば、それは活気が出るかなと思いますけど、壮年とか、壮年以降の方、年配の方、シニアの方を呼び込むっていうような観点も、デジタルだけに頼らないという点も大事だなと思いますし、私どもとしても、地元の良いところっていうのを、地元の方に伝える。それから、県外の方にも少しずつ伝えていきたいなというふうに思っております。

【山本　東部地域局長】
各界から色々なご提案いただき、ありがとうございます。行政の方としても参考になる点が多いかなと思います。ここで行政の方で、沼津市さんと三島市さんに

全体通して、どのような感想を持ったか聞いてみたいと思います。最初に沼津市さん、よろしくお願いいたします。

【沼津市　山田氏】
お世話になります。皆さんのいろいろなご意見をうかがわせていただきましてありがとうございました。
今、静岡県が移住先として人気ナンバーワンだということと、それからコロナウイルスの感染症の影響で、テレワークが注目を集めているということで、もちろん、コロナ禍の中大変な状況もあるのですが、これをある意味チャンスととらえて、テレワーク、転職なき移住についても非常に重要だと考えております。
沼津市の場合は、観光というと様々な体験ができる。先ほど石部さんのご意見でありましたが、デジタルによる情報発信と、それから観光でまず移住のとっかかりになるような、海であるとか、山であるとか、アクティビティをご体験いただけるというアドバンテージもあるというふうに考えております。
こうしたことを踏まえて、情報発信についても、体験と合わせてやっていくというような、そういった課題と今後の取り組みの仕方というのも、今日ご示唆いただけたと思い、非常に有意義なご意見を聞かせていただきまして、大変ありがとうございました。

【山本　東部地域局長】。
それでは三島市さん、よろしくお願いします。

【三島市　岩崎氏】
今日はどうも、このような席にお呼びいただきましてありがとうございます。先ほどから、お話をいただいている中で、三島市でも、移住定住の取り組みを進めているんですけれども、例えば、移住・就業支援金ですとか、結婚新生活の補助金ですとか、学生が戻ってくるための奨学金の補助金ですとか、様々な補助金の施策を打っております。
それから、その他にも、移住者支援の情報発信として、今年度、ホームページを新たに作り直して、PR、情報発信を行っています。それから、国のテレワーク交付金を使いまして、市内にテレワークを実施している企業の方々を支援していくということで、補助金を使わせていただいております。
その中で、お試し移住も、今ちょうど取り組もうとしているところであります。
先ほど、「ママとね」の中島さんからもお話がありましたけれども、やはりこういった支援をしていく中で、人との繋がりが本当に大事なんだなということを感じております。
そんな中で、移住者向けの、移住してきた実体験、先輩移住者の意見が情報発信できるように、移住アンバサダーを今年度創設しまして、４人の方にSNS等を使ってPRをしていただいているところです。

その他にも、移住を支えたり、移住してこられる方への情報発信ですとか、交流会を立ち上げようとしている民間の方々、団体の方がいらっしゃいますので、行政としても積極的に支援していきたいなと思っております。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。本当にいろんなご意見、ちょうだいいたしました。
もう時間も限られてるんですけども、ここでもし発言されてないことも含めて、全体通して何か言い足りないとか、説明したいという方いらっしゃいましたら、ここで、数名お受けする時間があると思います。もし、いらっしゃれば挙手をしていいただきたいと思いますけども、いかがでしょうか。
よろしいですか。
それでは、これで意見交換は終了し、議事は終わりにしたいと思います。
つぎに、次第４、その他報告です。

【柳川　伊豆観光局長】
伊豆観光局　柳川でございます。
私どもからは、人の流れを呼び込む取り組みの一つとして、大河ドラマ放送を契機とした、静岡県東部・伊豆半島地域の取り組みについてご報告いたします。
県では、今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、来年の「どうする家康」の放送を契機に、地域が持つ様々な魅力の中から、歴史や文化資源に光を当てまして、地域住民の理解を深めることによって、地域の愛着や誇りを醸成して、地域に人を呼び込む地域づくりを３ヵ年にわたって実施していくこととしております。
県東部地域では、「鎌倉殿の13人」の放送の機会を活かしまして、県とこの地域の20市町、観光商工関係団体等の83団体で連絡協議会を組織いたしまして、地方創生推進交付金を活用して、誘客、広域周遊の促進、消費の喚起に取り組んでいるところでございます。
具体的な取り組みは、２の取り組み内容にございますが、知る・深める、守る・つなげる、売り込み・誘うの三本柱で進めているところでございます。「鎌倉殿の13人」が放送される今年は「ぶしのくに静岡県」という言葉をコンセプトに、県東部・伊豆地域を中心に売り込み・誘う分野に力を入れておりまして、歴史文化の紹介動画、特設ウェブサイト、周遊マップ、ポスター、チラシ、のぼり旗等を活用した誘客、広域周遊の促進に向けたPRを実施しているところでございます。来年度からは、「どうする家康」も視野に、全県で歴史文化を活用した広域連携による地域づくりを進めていくところでございます。
私からの報告は以上です。

【山本　東部地域局長】
先ほど私、言い忘れました。これまで意見交換した中で、まだ意見が追加であるんだけどという場合もあろうかと思いますので、この時は、私どもの方に会議意

見送信票で、私ども事務局にお知らせいただければと思います。
それでは、ここで静岡県庁の地域振興局の山田局長から最後に一言ごあいさつがあると伺ってます。山田局長よろしくお願いいたします。

【地域振興局　山田局長】
県地域振興局長の山田でございます。一言ご挨拶を述べさせていただきます。
本日、皆さんご多忙の中で、会議に参加いただきまして本当にありがとうございます。地域会議というのは、さかのぼること８年になりますけれども、あっという間と思いますが、地方創生が出てきた時に、国の方から、この産官学金で構成する会議を興して、議論をまとめていけということで、やや受け身的に始まった場ではありますけれども、その後、年に１回程度の会議となり、本日も皆様方から多くのご意見をいただいて、地域づくりの方向性を議論するということも非常に重要だなということを毎年感じております。
私どもも政策を進める上で、皆さんの問題意識を受けとめて、また来年度こうした場で、その答え合わせをする、あるいは新たな気づきを得るという形で活用させていただいております。
皆様にとっても、今日のこの意見交換をそれぞれにとって、こうした気づきというものになっていればいいなと願っております。現在国の方では、デジタル田園都市構想という名称になって、この地方創生政策の看板が、やや名称は変化しておりますけれども、いずれにしても一貫して地域活性化の仕組みを整えていこうという動きが重要であるということは、一致しているかと思いますので、本日、皆様から、いろいろな意見をいただきましたけれども、まだまだ言い足りないことも多々あろうかと思います。そうしたご意見は、日頃のお付き合いを通じて、地域局なり、私ども地域振興局なりにお届けいただければ、誠にありがたいなと思っております。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。
それでは、閉会に先立ちまして、静岡県特別補佐官　土屋補佐官に一言、お願いをしたいと思います。
よろしくお願いします。

【土屋特別補佐官】
本日は長い時間ありがとうございました。今日、皆様方にご意見をいただいて、本当にありがたいなと思ってます。
本当に多くの皆様方が、地域のために様々なことをしていただいています。こうしていただいてることを、住民の方に知ってもらうことが、まず、やるべきことかなと思いました。本当に長い議論ありがとうございました。
今日の議論の中で、一番思ったのは、この地域の良さというのを、住民の方にま

ず知ってもらうことがすごく重要かなと思います。かつ、それを、どうやって守っていくのかを考えていただくことも重要です。今やっております「鎌倉殿の13人」も、こういう歴史が地域にあったということを、みんなに知ってもらう。この魅力を感じてもらうことが、住民の方に対して、私どもが出すべきものかなと。皆様方が、こうやって頑張っていただいて、こんな仕事をやってるよねって、頑張ってるよねってことを知ってもらう。これが、地域の良さに繋がってるかと思ってます。
こういうことを、私どもがしっかりと住民の方々にお知らせしていくこと、これをまずお約束させていただきたいと思ってございます。先ほど議論がありました、どうやって、皆様方に、貴重な情報を必要な時期にお伝えすることができるか、これは、私どもの課題でございますし、各市町も同様に課題だと思ってると思います。これもマスコミの方々にも相談しながら、先ほど、沼津高専の方も、日本大学の方も、必要な情報が来てないという示唆かと思います。この地域の企業の方の情報、あるいは、どんな活動をしてるのかも分らないという情報、こういうものを、「ママとねさん」は、育児、子育てに関して、こういう情報を伝えていただいております。
様々なチャンネルを使って、私どもの県、市町がやってること、あるいは、ここにいらっしゃいます皆様方がやってることを、どうやってお伝えしていくか、それをどう繋いでいくか、私ども県のやるべきことかと思っていますので、今後も、皆様方のご意見、ご協力をお願いしたいと思ってございます。
本当に長い時間でありましたけれども、私どもは、この会議の皆様のご意見を活用して参りたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。本日は長い間、ありがとうございました。

【山本　東部地域局長】
ありがとうございます。本当に皆様方、本日は貴重なご発言をたくさんいただき、ありがとうございます。また、長時間にわたる熱心なご討議、そして円滑な議事進行へのご協力に感謝申し上げます。以上で予定した議事を終了します。
進行を事務局にお返しします。よろしくお願いします。

【長谷川　地域課長】
事務局でございます。本日は長時間にわたりまして、活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
以上をもちまして、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議　東部地域会議を終了いたします。
皆様、お疲れ様でございました。ありがとうございました。